

令和3年度ルールメイカー育成プロジェクト実施報告書

学校名

広島県立尾道商業高等学校

1 取組のねらい

- ・現状を理解し、将来を見通した課題解決や目標達成のために計画的に実行する力を育成する。
- ・役割を果たす場面で、周囲を巻き込んで（他者と協働して）行動できる力を育成する。
- ・課題解決場面で新たな価値を創造できる力を育成する。

2 取組計画・取組内容

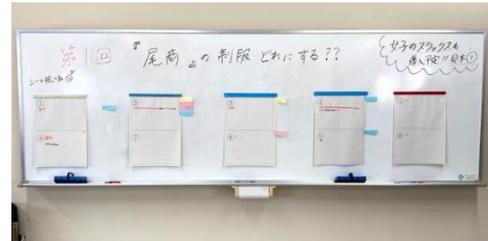
- (1) 生徒指導規程の洗い出し
規程の各内容が、「実態に合ったものか」、「人権や多様性等に配慮したものになっているか」等の視点を持ち、生徒会役員、担当教員双方で、現行の生徒指導規程の読み込み、意見交換を行う。
- (2) 見直したい規定のピックアップ
「商業高校としての専門性や尾道商業の特色を生かすことができるか」「LGBTQ等多様性や人権に配慮できているか」等の視点をもってピックアップした見直したい規定について、その根拠や見直しの方法について生徒会と担当教員で協議する。
- (3) 生徒指導規程見直し校内研修
生徒がよりよく生きていくために規定の見直しをどのように行えばよいか教員間で考える
- (4) アンケート調査
教員・生徒・保護者に Google Workspace 等のアンケートを活用し、規程改定案への意見を集約する。
- (5) プレゼンテーション
LGBTQ など人権に配慮した規定案について生徒主体で教員へプレゼンテーションをする。
- (6) 次年度計画
成果や課題をもとに学校全体で取組む体制を計画する。

3 取組の創意工夫（活動の様子）

- (1) 教師も生徒も互いの考えを出し合い、自由に意見交換



- (2) 全校生徒対象に新制服アンケート実施



- (3) 規定改定案のプレゼンテーション



4 成果（生徒や教職員等の変容等）

- (1) 生徒指導規程の見直しとともに、それに係る指導の在り方について、「指導の目的が明確になっているか」「指導方法は望ましいもので効果的か」「指導すること自体が目的となっていないか」等の視点をもって、教職員が考えるきっかけとなっている。
- (2) 年間11回のプロジェクト会議を開くなかで、生徒と教員の垣根を越え、プロジェクトメンバーとしてよりよい学校作りに向けた意見を積極的に出し合うことができた。

5 課題や気づき（今後に向けて等）

活動を続ける中で、「校則を変える」ということが目的化してしまい、教員・生徒ともに目に見える成果を求めてしまった。ゆえに、「よりよい学校作りに向けた取組」という視点が欠落したことは否定できない。根本的な課題を見失わず、来年度以降も活動を継続していきたい。